三竹工業安全大会

ゼロ災害誓い合う

㈱三竹工業（竹下豪修社長）と同社安全協議会（野間悟会長）は4月25日、鹿児島市のハートピアかごしまで21年度安全大会を開いた。協力会員ら約80人が出席し、向こう1年の無事故無災害を誓い合った。

冒頭、竹下社長が「安全なくして企業の繁栄はない。厳しい環境下で生き残っていくためにも、関係者が一体となってゼロ災害を達成しよう」と挨拶。野間会長も「昨年度に引き続き、無事故無災害を目指していこう」と、会員らに一層の協力を呼び掛けた。

このほか、20年度安全協議会活動報告、各種安全表彰、鹿児島西消防署職員による「普通救命基礎講習」も実施。最後に、同社の竹下篤憲氏と同社安全協議会の延時健悟氏（錦江機械）が「今年1年、無事故無災害を目指します」と力強く安全宣言を行い大会を終了した。

なお同日は、大会に先立って健康診断と献血も実施。参加者のほとんどが善意の献血に協力した。

表彰者は次の通り。

努力感謝状＝吉田工業（吉田伸也）▽安全努力表彰＝石橋組　㈱ウエノ　㈲坂元組　野間工業　松﨑組　松﨑勇二　小田原英樹▽21年度安全標語表彰・現場＝延時健悟▽同・交通＝竹下篤憲

向こう1年の無事故無災害を誓った大会＝鹿児島市のハートピアかごしまで

企業改善の第一歩に

鹿児島南倫理法人会

鹿児島南倫理法人会（上村秀智郎会長）主催の第300回経営者モーニングセミナーが4月29日、鹿児島市の鹿児島サンロイヤルホテルであった。約140人の参加者が集った今回、森博幸鹿児島市長の記念講演も行われた。

平成15年7月にスタートしたセミナーはこの日で300回を数える。上村会長は「皆様の協力のおかげで今日を迎えることができ、感謝しています。1日のスタートとなる朝の時間を大切に、経営者自らが率先し行動を起こすことが、企業改善の第一歩。今後も共に頑張っていきましょう」と挨拶。

上村会長（右）から寄贈品の目録を受け取る森市長＝鹿児島市の鹿児島サンロイヤルホテルで

記念講演では、森市長が「鹿児島の未来について、広く地域住民に寄与することを目的に開催している。

今回は、日本赤十字社の「愛の献血車」がグラウンド横の駐車場に3台待機（終日）。各試合会場や応援席などに呼び掛け、200人を超える参加となった。

黒木三洲男情報委員長は「毎年、父兄や地域の方々に声掛けをし、協力をいただいている。少しでも何らかの形でお手伝いをしたいという親御さんの気持ちを子供たちが感じ、奉仕の心を育てもらえれば幸せです」と語った。

なお、少年ソフトボール大会はA級30チーム、B級8チームが参加し、熱戦を繰り広げた。

成績は次の通り。

【A級】優勝＝東谷山ソフトボール少年団▽準優勝＝松山ソフトボール少年団▽3位＝星峯西ソフトボール少年団　中山ソフトボール少年団

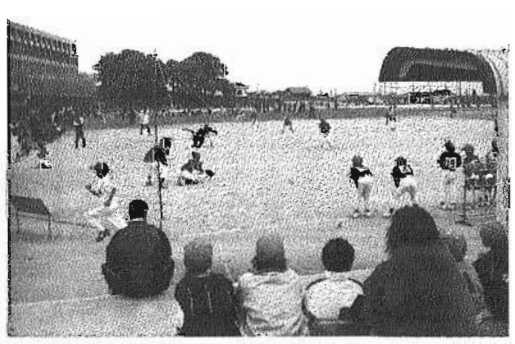
【B級】優勝＝福平ソフトボール少年団▽準優勝＝西谷山ソフトボール少年団▽3位＝東谷山ソフトボール少年団　中山ソフトボール少年団

鹿児島南LC杯 少年ソフトボール大会等

献血活動も 200人が協力

鹿児島南ライオンズクラブ（川田代善彦会長）は4月26日、鹿児島市の鹿児島国際大学で「第16回鹿児島南LC杯スポーツ少年ソフトボール大会」を開き、500人が参加した。会場では献血も行われ、ソフトボール関係者の父兄や地域住民らが協力した。

大会は、谷山地区ソフトボールスポーツ少年団連絡協議会が主管し、登録されたチームが毎年競い合っている。開催にあたり南ライオンズクラブでは、競技を通して団員相互の親睦と体力の向上を図り、スポーツ少年団の健全育成を推進するとともに、献血運動を通じて、広く地域住民に寄与することを目的に開催している。



熱戦が繰り広げられたソフトボール大会（上）、献血に協力する参加者＝鹿児島市の鹿児島国際大学で

（涙橋まで）をしていきたい考えを示した。

同日は、同会が鹿児島市へ電動アシスト自転車2台を寄贈。これを受け、森市長から上村会長に感謝状が手渡された。

地域貢献活動

～ 県畳工業組合 ～

薩摩義士碑周辺を清掃

畳工業組合（増田勇理事長）と同青年部（宮伸一郎部長）は4月29日、鹿児島市の薩摩義士碑周辺で清掃奉仕活動を実施した＝写真＝。組合員ら約20人が参加し、石碑や階段、周辺歩道の草むしりなど、地域の美化に取り組んだ。

4月29日「昭和の日」は、全日本畳事業協同組合が「春の畳の日」として定め、約250年前、郷土の偉人が不屈の精神で木曽川治水工事を成し遂げた偉業をしのび、この日に合わせ毎年奉仕作業を行っている。

参加者らは、早朝から約1時間かけ、石碑や周辺歩道、階段などに散っていた落ち葉やごみを丁寧に拾い集めていた。作業後は、全員で石碑に、線香を上げ手を合わせた。

増田理事長は「日本古来の伝統を後世に引き継ぐことができるように、組合としてもさまざまな事業を積極的に行っていきたい」と話した。

～ 江口土木 ～

遺児に進学支援

㈱江口土木（江口正幸社長）は4月27日、鹿児島市の本社駐車場で社員をはじめ、近隣事業所や協力会社の協力を得て、毎年恒例の献血を実施した＝写真＝。今年で8回目。

同社では、手術用の血液が不足する毎年この時期に、社員の健康診断に合わせ献血活動を行っており、今回も近隣事業所やグループ企業などから多くの協力が得られた。社員らは、まず事務所内で血圧検査や体重測定、視力検査などの健康診断を済ませた後、この日の献血に臨んだ。献血は午前中いっぱい続けられ、約80人が400㎖に協力した。

また、今回はあしなが募金への協力を促す募金箱が置かれ「遺児にも進学の夢を与えよう」と献血を終えた社員らが次々に支援金を投じていた。

県赤十字血液センターでは「このような企業による集団献血が血液不足の解消につながる」と善意の献血に期待を込めた。

～ 大神興業 ～

地域の社会福祉に一役

㈱大神興業（神宮司郎社長）は4月26日、鹿児島市の鹿児島子ども療育センターで土山づくりにボランティアで協力し、地域の社会福祉に貢献した＝写真＝。

同センターには障がいや育ちにくさを持つ未就学児が通園する。「土山」とは子供たちが転がり下りたり、駆け下りたりなど、土の感触を感じながら遊ぶ場所で、療育実践で大切な役割を果たしている

同日は、神宮社長や吉永和馬務ら8人が参加。園生の父親やンター職員らとともに、土山び周辺約170㎡を手作業で除草ユンボを使って周囲約20m、約1.5mの立派な土山を形成した。また、別の場所にもう一つ小山つくったほか、手配した耕運土山の周りをならした。

神宮社長は「年2回、土山づりに参加しています。5回目にり、作業もだいぶ慣れてきました皆さんと交流しながら、楽しくり組んでいます」と笑顔で話した

情報はこちらへ

本紙では、企業や団体等の地域貢献活動を掲載しています。作業風景の写真や作業内容等を記入し企画部まで情報をお寄せください。新聞掲載は無料です。

E-mail:kikaku@po.kc-news.co.jp